知教労ニュース

発行　知多地方教職員労働組合（知教労）
〒475-0929 半田市仲田町1-18　Tel&Fax 0569-24-5216
HP:http://www.chikyoro.ikaduchi.com/ e-mail:chikyoro@oboe.ocn.ne.jp

教育委員会との話し合い進む　７市町が終了

阿久比町教委会との話し合いの結果、要求実現
生徒の県外・海外派遣の引率者手当てを支給！

知多五市五町の教育委員会との話し合いは順調に進み、10月22日現在、残すところ3市町となりました。

阿久比町教育委員会との話し合いでは、毎年8月に行われる中学生の広島体験事業（1年生が広島平和式典に参加、1泊2日）と海外生活体験事業（3年生が参加、カナダに10日間）の引率教員の手当てについて言及しました。

いずれも町の委託事業でありながら、これまで旅費や宿泊料などの必要経費は出されていましたが、定められた引率教員への手当ては出されていませんでした。それぞれの事業は、該当学年の年間行事に組み入れられ、生徒の選出、事前指導、経費の使途、報告を含む事後指導はすべて学年、とりわけ引率教員がその多くに関わっています。日常の教育業務で多忙な生活を送っている上に、引き受けたからには生徒のよりよい体験のためにと頑張っている教員に対して、これまで何の手当ても考慮されてこなかったということです。この憂慮すべき事態に対して教育委員会・町は誠意をもって責任を負うべきです。　この訴えに対して早速教育委員会が動き、今年度の引率者に対しては手当てが支払われることになりました。広島への引率者には1日につき2，200円。カナダへの引率者には1日につき3，800円です。知教労は引き続き、労働基準法に従い、過去2年にわたっての手当て未払いについて、支払いを追求していきます。

他の市町においても海外派遣や県外派遣として児童生徒を引率して出かける事業があります。引率者に対して相応の手当てが支払われているのか、今一度確認していくことが求められます。

多忙化解消・部活動加熱化防止
勤務実態の把握など継続的に要求

愛知県が事業所勤労者数の基準を変更しました。短時間でも勤務している教職員すべての人数が学校の勤労者数と数えられます。それに伴い50人以上の職場が増えることになり、衛生委員会を設置する学校も増えます。超過勤務を減らし労働環境を改善するための正式な制度を活性化させたいものです。もちろん職員の人数にかかわらず管理職は多忙化解消のために具体的な策を講じ、勤務実態を正確に把握して改善する必要があります。

【内閣府の帰るキャンペーン】

原発反対集会に参加して

東京の日比谷公会堂で開かれた10・13原発ゼロ統一行動に参加しました。開催予定の一時間前、すでに整理券を求める長蛇の列がありました。

作家であり9条の会の代表世話人のひとりである大江健三郎氏が、「この一年、半年で原発反対を我々が押しとどめないと、もう(国の推進の動きを)押し返せない」という激励のことばを話されました。最後にルポライター鎌田慧氏からの行動提起があり、引き続き都内のデモ行進に参加しました。

霞ヶ関の官庁街から東電の前を過ぎ、シュプレヒコールを久しぶりに味わいました。沿道の人々も大方好意的で、平和なデモ行進が続きました。17時からは国会前行動も予定されていましたが、日帰りの私は心を残しながらもデモ終了で帰途に着きました。

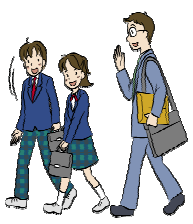
その日集まった参加者は主催者発表で4万人。多数の人の中では、自分は小さな存在ではあるが、集会とデモ行進という行動を共にして連帯することの素晴らしさを改めて感じさせられました。

【都内をデモ行進】

北から南から　～支部だより～

今年の夏は研修が多く、部活指導や日直、その他の用事で出校しなくてはならないことも多く、家族休暇を取るのが精一杯だった。動向表には年休・割り振りと記入していたが、職員室で仕事…という日もあった。そういう日は、終業式の日の教頭の言葉を思い出す。「夏休みには割り振りや年休を取って体を休めたり家族サービスをしてください。」と言いつつ、「夏休みのうちに日頃出来ない研修や2学期の準備をして下さい。」…結局、後者の方に追われる毎日である。しかも、自分で望んだ研修ではない。新任の先生は、「行事をもたない期間」も研修が入っていた。知教労は普段の勤務での、『労働の実質的軽減』を求めているが、夏期休業中の労働状況の改善も求めていかなくてはならない、と思わされた。

もう一つ考えさせられたことがある。研修の一部は、教員免許更新講習であったが、聞くところによると、講座を開設している大学は儲かっているとか。大学にとっては、職員も教室も空いている期間の有効活用である。A教育大学のように1000人以上の受講生を集めている様子を見たら、「うちもやろう。」という大学が増えるのは当然のことと思う。そして、一度開設したら止めたくはないだろう。そのため、教員免許更新講習制度を廃止させるな、と動いている人もいるのではと考えた。



教員の時間・心・財布を苦しめるこの制度を一刻も早く中止して欲しいものだ。　(N)

みんなの目

たくさんの話題を残して9月に終了したテレビドラマ「半沢直樹」。今世紀最高視聴率とか「倍返し」が流行語になるなど、巷で語られることの多かったドラマである▼職場でも月曜の朝や給食時などに話題になることがあった。テレビドラマのことが職場で語られるなど、昨今まれなことである。それだけ人々の関心を集めたということだろう▼職場の若い先生たちと「半沢直樹の魅力って何だろう？」という話になった。そのときの結論としては、「白は白、黒は黒とはっきりものを言う」しかし、決して孤独ではなく「信頼できる仲間がいること」というものだった。はっきりものを言うことは、とかく職場では孤独になりやすいという実感を彼らはもっているのかもしれない▼その若い先生たちは、朝早くから夜遅くまで実にまじめに働いている。長く続く不況のせいか、働くことに熱心で、働く権利や労働条件などに対してはあまり意識がないように思われる。超過勤務も日常化しており、百時間越えなども珍しくないと聞く。非常勤の講師も増えており、勤務体制や研修にも問題が多い。時代のせいで片付けられてはいけないし、私たち組合の存在感がさらに増してくるのではないだろうか▼当たり前のことが当たり前に言える・・・それは、日ごろ私たちが子ども達に求めていることであり、私たち自身にとっても失ってはならない生きる姿勢である　(Y)

データで見る『教員の実態』第39回

『6，454人、 3，282人増』

少子化により児童･生徒数が減っているのは、読者にはご承知のことと思います。しかし、日本全国の公教育現場で増えている学校や児童･生徒があります。お気づきでしょうか。それは特別支援学校及び特別支援学級です。

文科省の学校基本調査によると、特別支援学校は5年前(2008年)よりも54校増えています。愛知県でもその間、岡崎市に知的障害児を対象とした、愛知県立みあい養護学校ができました。知多半島ではその少し前に、半田市に肢体不自由児のひいらぎ養護学校(2004年)や、大府市に高等部だけの半田養護学校桃花校舎（2006年）もできています。

私たちの勤務する小中学校に限定して、5年前（2008年）と比較してみると、

	2013年度※	2008年度	増減
小学校特別支援学級数	34,128	27,674	6,454
中学校特別支援学級数	15,612	12,330	3,282

※2013年度速報

となっています。詳しい資料のある昨年度のもので4年間を比較すると、

	2012年度※	2008年度	増加
国公私立在籍児童数	113,961	86,331	27,630
国公私立在籍生徒数	50,467	37,835	12,632
担当教員数　小学校	35,047	29,364	5,683
担当教員数　中学校	16,211	13,239	2,972

※2013年6月発表の資料

このように、大幅な増加が見られます。特別支援教育が実質的に始まってから6年が経ちます。1学級8人という特別支援学級の条件でも児童･生徒によっては、たいへんだということを耳にします。しかし、以前は担任だけでは、指導が困難だった児童に、その子に合わせた手厚い教育ができるようになってきました。

通常学級でも定員の見直しを進めて、より手厚く、より人間らしく働けるような条件整備を進めてもらいたいものです。

知ってるつもり･Q＆A

プロ野球選手の契約は？

Q　例年、プロ野球のペナントレースが終わる頃になると、「○○選手解雇」「○○選手戦力外」などという報道がなされます。このコーナーで、プロ野球選手も労働者であり、プロ野球選手会は労働組合である、という記事を読みました。プロ野球選手も労働者である以上、所属球団から解雇を言い渡される期間に規定があるのでしょうか。通告は、なされるのでしょうか。

A　プロ野球選手の雇用形態は、公務員や会社員とは異なります。所属球団という言い方はしますが、その球団の職員になるわけではなく、個人事業主として、球団と契約を結びます。通常は1年契約ですが、複数年契約する場合もあります。

さて、次の年には選手契約を結ばないことを、報道などでは、『解雇』や『クビ』などという表現をすることもありますが、1年ごとの契約ですので、正式には『解雇』ではなく、「来年は契約しない」ということを通告します。

この通告の時期ですが、以前は、12月に行われる契約更改の際に「戦力外と考えていますので、来年は契約しません。」などと通告がされるということも多くありました。

2005年からは、戦力外を通告されても現役続行を希望する選手のために、『トライアウト』という12球団合同の入団テストがシーズン終了後に行われています。労働組合でもある、日本プロ野球選手会とプロ野球機構との間で、この『トライアウト』の前に戦力外通告をしなけらばならないという取り決めになっています。

利き手と教育

私は左利きである。でも、字を書くときも右、習字を書くときも右で、おはしも右である。では、もともと右利きなのか。いや野球のボールを投げるときは、右手では、とても遠くには投げられない。

右利きの人でほとんどが右で慣れている人にとっては、何を言っているのだとお思いになったことだろう。字もはしも野球の投球でも、その他もろもろも右手が得意に決まってるじゃないかと……。

教育は、もっとも簡潔に言えば、一人ひとりの脳が持つ能力の活性化と開発である。記憶する力、応用する力、新しい概念を生み出す力などを伸ばすことである。もちろんその一つ一つがより多くの人の幸せにつながるというベクトルの上であることは言うまでもない。概念としての知識を数多く覚えることも必要である。しかし、人間にとって最も必要なのは、脳でイメージした通りに体のいろいろな部分を動かすことができるようにすることである。

危険な物が飛んできたらよける。逆上がりができる。バットでボールを打てる。ラケットでシャトルが打てる。うれしいことがあったらにっこり笑い、自然に「ありがとう」と言えるなど，体そのものを動かすことから心と体を一体化させて振る舞うことまで、人間には、イメージと動きを一体化できるようになるといいことがたくさんある。そのためにいろいろな体験を積ませ、その動きを体に染みこませるために何回も何回も訓練をする。

そう考えてくると、文科省の言う学力だけではない何かが必要なのではないか。学力テストだけでは測れない多種多様な能力があるのではないか。情報を操作するだけではない、直に体と心を動かす、そんな学びが必要なのではないか。などと思いつつ、給食の麺の袋や小さなビニール袋を小さく結ばせ、「片付けてくれる人に気持ちよく片付けてもらおう」と指導する毎日である。ミニサッカーやラケットベース、多くの道具を用意し、一人ひとりがコツをつかめるよう工夫し、新聞を数多く書かせる毎日だ。

しかし、私の父は屋根裏へ続く階段をDIY（日曜大工）で作った。私は、最近ウッドデッキをDIYで修理した。娘の彼氏は「ぼくにはできそうもない」と言う。ミリ単位まで操作できる腕前が世代を超えて少しずつ失われてきているような気がしてならない。人のできることが少しずつ矮小化している気がしてならない。最近、そういう危機感を感じている。

左手では、うまくインパクトドライバーが使えるのに、どうして右手では、うまく使えないのだろう。自らの未熟を感じつつ、利き手と教育のあり方を考える今日この頃である。